

和歌山

地域面3ページ

和歌山支局

〒640-8154 和歌山市六番丁5
 和歌山第一生命ビル4階
 TEL073(431)1411
 FAX073(433)0650
 wakayama@mainichi.co.jp

【通信機関】

橋本	0736(32)0063	新宮	0735(28)1751
海南	073(482)0675	御坊	0738(22)2511
湯浅	0737(62)2870	田辺	0739(26)1026
			073(423)9291
			0120-468012

【広告問い合わせ】
 【購読問い合わせ】

星の口し
 マーク矢崎
 10 F

山口王子跡から山口神社(和歌山市) 絵と文・熱田親憲 題字・熱田秦華

熊野古道

みづくくまの記

28

大阪府の南端、阪南 越えれば紀伊国・和歌山の山中溪から真境を 山県。雄ノ山峠近くに

は峠越えの難所だった関所跡がある。視界が広がる。眼下には和歌山平野が、はるか前方の山並みを越えると熊野三山があると、心は新たまる。

山口王子跡から山口神社に向かう紀州街道園の中にぼつりと立つと、山合いの集落の墓地に、満開のコスモスが隠れて小野小町の墓があった。小野小町といえは、平安時代の女流歌人で三十六歌仙の一人であり、百人一首にある「花の色は移りけりないたつらにわが身世にふるながめせしまに」の句がよめ知られている。彼女と、心が新たまる。

山口王子跡から山口神社に向かう紀州街道園の中にぼつりと立つと、山合いの集落の墓地に、満開のコスモスが隠れて小野小町の墓があった。小野小町といえは、平安時代の女流歌人で三十六歌仙の一人であり、百人一首にある「花の色は移りけりないたつらにわが身世にふるながめせしまに」の句がよめ知られている。彼女と、心が新たまる。

紀州の玄関口に立つ

伝えられ、その後、絶世の美女を小野小町と称するようになった。小野小町の実像は不明だが、熊野詣で行き倒れたと聞いた。山越えの厳しさに疲労が重なり、途中で挫折された無念さを感じた。

さらには街道を進み、修験道の役小角の祠のある墓地の角を曲がって参道を進むと、田

園の中にぼつりと立つと、山合いの集落の墓地に、満開のコスモスが隠れて小野小町の墓があった。小野小町といえは、平安時代の女流歌人で三十六歌仙の一人であり、百人一首にある「花の色は移りけりないたつらにわが身世にふるながめせしまに」の句がよめ知られている。彼女と、心が新たまる。

徳川家の山口御殿跡が近くの山口小学校内の嫡男・兵内に嫁い

不孝にも同年、大阪で処刑された。あっぱれな「武士道」である。二人の女性の生涯に触れ、当時の女性はままならぬ運命に流されざるを得なかったが、今日の女性は生き生きと自分の人生を楽しんでおられ幸せである。

「スモスヤ小町の墓に草鞋添え 秦華」(次回は1月14日掲載予定)

山口神社(和歌山市谷)にて

